

CALMS

The Cognitive, Affective, Linguistic, Motor and Social (CALMS)
Assessment for School-age Children Who Stutter (カルムズ)

吃音のある学齢期の子どものための 評価尺度

著…E・チャールズ・ヒーリー
訳…川合紀宗

近年では、吃音児者の「個人差」に着目し、吃音の言語症状だけでなく、全般的な言語能力や口腔運動能力に加え、吃音に対する知識・認識面、行動面、心理・感情面、社会性・社交性などといった様々な要因を多面的・包括的に評価し、その結果を臨床につなげる「多次元モデル」が提唱されるようになりました。その1つであるCALMSモデルを提唱し、このモデルに基づいてCALMS評価尺度を開発しました。このCALMS評価尺度では、吃音を構成する要因（構成要素）を、吃音のある子ども自身の①吃音に関する知識や認識（知識・認識面：Cognitive）、②吃音に対する感情や態度（心理・感情面：Affective）、③全般的な言語能力（言語能力：Linguistic）、④発話時の感覚運動制御（口腔運動能力：Motor）、⑤会話する場面や状況、聞き手のタイプによる影響（社会性・社交性：Social）に分類し、すべての構成要素の下位項目（23項目）についての評価を行ない、その後、①～⑤の構成要素ごとの評価を行なうことで、本人にとって得意な構成要素と苦手な構成要素を指導者と本人の双方が把握し、臨床指導に生かしていくことを目的としています。

対象年齢

小学1年生～中学3年生

内容

- 理論・解釈・臨床マニュアル（冊子）
 - 実施・採点マニュアル（Wリング）
- *別売り：記録用紙（8ページとペラ5枚を1セット）

所要時間

1時間～1時間30分程度

主な特長

- 吃音のある学齢期の子どもを検査するための多次元データに基づいた評価の手引きです。
- 吃音の情報収集、そして、23項目のパフォーマンスの段階評価を通して、臨床家の臨床計画立案や子どもの吃音のプロフィール作成を支援することを目的としています。
- 各項目に対して1～5までの段階評価を行ないます。段階評価は、子ども個々の項目ごとのパフォーマンスや能力に対する懸念の大きさのレベルに基づいて行ないます。

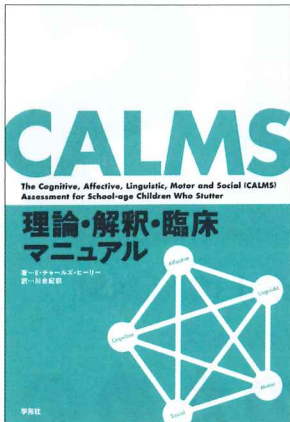


学苑社

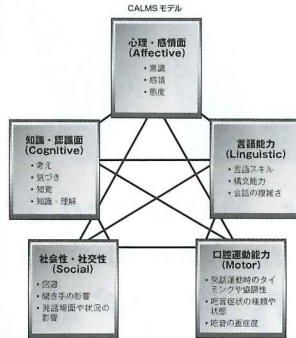
Tel 03-3263-3817
Fax 03-3263-2410

info@gakuenasha.co.jp
https://www.gakuenasha.co.jp/

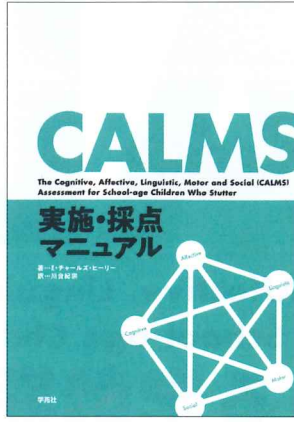
102-0071 東京都千代田区富士見 2-10-2
価格・詳細は、学苑社のウェブサイトをご覧ください。



CALMSを理解するために



CALMSを実施するために



理論・解釈・臨床マニュアルの目次

第1章 序論

- CALMS 評価尺度について
- CALMS 評価尺度の使用法
- CALMS 評価尺度を開発した理由
- 多次元の障害としての吃音という概念
- CALMS モデルについて

第2章 CALMS モデルの評価と臨床への適用

- 包括的な臨床アプローチの主要な目標
- 包括的な臨床アプローチに関係する要素
- CALMS の構成要素と臨床との関係

第3章 IDEA と CALMS 評価尺度

- ASHA-IDEA による基準ガイドライン——流暢性障害の判定基準
- IDEA の必要条件と州の基準との関連
- 教育場面における吃音の影響の大きさを判定するための CALMS 評価尺度項目の適用

第4章 構成要素の項目を得点化する手順

- 知識・認識面: Cognitive
- 心理・感情面: Affective
- 言語能力: Linguistic
- 口腔運動能力: Motor
- 社会性・社交性: Social

第5章 CALMS 評価尺度の結果に基づく

- 吃音のある学齢期の子どもの個別の指導計画における長期目標の例
- 知識・認識面 (Cognitive) の目標例
- 心理・感情面 (Affective) と社会性・社交性 (Social) の目標例
- 言語能力 (Linguistic) と口腔運動能力 (Motor) の目標例

第6章 臨床の活動内容

- 概要
- 吃音への気づきと理解を高めること (C, A, M)
- 吃音の瞬間を認識し、自己モニタリング力を高める練習 (C, A, M)
- 意識的に吃音を使う練習—わざとどもること (C, A, M, S)
- 吃音が生じた場合に何が起るか、また、発声発語器官のどの部分が関与しているかを理解すること (C, M)
- 吃音に対するより肯定的な姿勢や感情の促進 (C, A)
- 否定的なつづやきから肯定的なつづやきに変えること (C, A)
- 会話をより楽にする方略や技法を見つけること
 - 流暢性形成法や吃音緩和法の概要 (C, A, M, S)
- 発話流暢性の増加や吃音重症度の軽減を促進するための5つの方略や技法 (C, A, M, S)
- 発話の長さや複雑さを操作することによって吃音をコントロールすること (C, A, L, M, S)
- 文脈化された教材を使用して、発話の長さを増加させるその他の方法

第7章 臨床結果のまとめ方

第8章 信頼性と妥当性

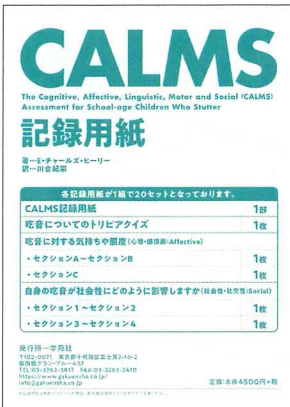
- 信頼性
- 内容的妥当性
- 構成概念妥当性

第9章 CALMS 評価尺度の使用例

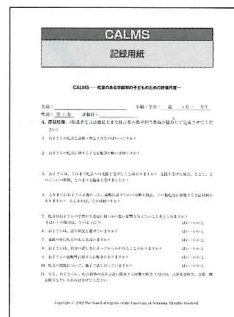
第10章 評価レポートの作成例

- 背景情報
- 診断情報
- 評価結果と推奨事項の概要

記録用紙 (20 セット)



臨床へ生かすために記録する



CALMS

理論・解釈・臨床マニュアルと
実施・採点マニュアルのセット

本体 **7600** 円 + 税 ISBN:978-4-7614-0808-4
最寄りの書店・代理店へご注文ください。

記録用紙 (8 ページとペラ 5 枚を 1 セット)

本体 **4500** 円 + 税

* 記録用紙は、書店では取り扱っておりません。ご注文につきましては、マニュアル内に掲載された心理検査販売代理店へご注文ください。